

Part 2 トーク

豊島作品の演者や生前深い交流をもった方々に、豊島重之の活動を巡ってお話いただきます。

【トークゲスト・プロフィール】

八角聡仁 やすみ・あきひと

広島県生まれ。批評家。近畿大学文芸学部教授。演劇、ダンス、映画、写真、文学等に関する論考多数。編著に『現代写真のリアリティ』（2003年・角川学芸出版）、『キセキ-gozeCine』（2009年・オシリス）、『土方巽一言葉と身体をめぐる』（2011年・角川学芸出版）他。豊島が主宰する劇団「モレキュラーシアター」の豪州アデレードフェスティバルでの公演(1996年)に同行。本展出品作の「直下型演劇」シリーズの一つに、豊島のインタビュー相手として出演している。

田島千征 たしま・ちゆき

十和田市生まれ・在住。ダンスアーティスト。ダンスバレエリセ豊島舞踊研究所教師。幼少時より豊島和子・重之姉弟の作品に出演。1994年モレキュラーシアター『顔・耳・脚の演劇』参加以降、豪州公演、フランス5都市公演ほか。三部作「顔・口・脚の演劇」(1995)、『ファサード・ファーム』(1996)、『HO-58/59』(1997)、『OSIRIS/OSCILLIS』(1999)、『ITADORI』(2003)、『HO Primer』(2004)、『バレエ・ビオメハニカ/BALLET BIOMECHANICA』(2007)、『mouthed』(2009)、『nori-shiro』(2011)、『カピウ・かぶしま』(2013)、『nini-nga-ni』(2017)他、本展出品作の「直下型演劇」シリーズにも出演している。

大久保一恵 おおくぼ・かずえ

八戸市生まれ・在住。ダンスアーティスト。ダンスバレエリセ豊島舞踊研究所教師。幼少時より豊島和子・重之姉弟の作品に出演。1986年モレキュラーシアター『f/F parasite』参加以降、海外10ヶ国公演16都市公演など。モノリサイタル『セイレーン』(1985)、『ロクス・パラソルス』(1992)、『低温熱傷性演劇』(2002)、『ITADORI』(2003)、『HO Primer』(2004)、『Decoy』(2007)、『ILLUMIOLE ILLUCIOLE』(2008)、『mouthed』(2009)、『nori-shiro』(2011)、<豊島弘尚「夜の目(大鴉の飛ぶ)」に基づくダンスピース>(2018)他、本展出品作の「直下型演劇」シリーズにも出演している。八戸市芸術文化奨励賞受賞。

高沢利栄 たかさわ・としえ

岩手県二戸市生まれ・八戸市在住。ダンスバレエリセ豊島舞踊研究所代表。1979年豊島重之脚本監督の映画『他意なきわれらを容れよ』に参加。1980年『海拔へのへのもへじ 砂漠のフーガ』出演以降、豊島主催の「東北演劇祭」、「国際カフカフェスティバル」や「モレキュラーシアター」、「市民アートサポート ICANOF」の制作も担当。1984年「ヒノエマタ パフォーマンス フェスティバル」参加。主な出演作に『f/F parasite』(1986)、『S/S 秘書たち』(1990)、『<トリアス=三連劇>』(1994)、『mouthed』(2009)ほか。

倉石信乃 くらいし・しの

長野県生まれ。明治大学大学院理工学研究科教授。1989年「ユリイカの新人」に選ばれ、以来詩作を発表、また美術・写真批評を手がける。写真批評の著作により、1998年重森弘淹写真評論賞受賞、2011年日本写真協会賞学芸賞受賞。著書に『反写真論』(1999年・河出書房新社)、『スナップショット—写真の輝き』(2010年・大修館書店)、『孤島論』(2022年・インスクリプト刊行予定)など。